

令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(国語)科目：(現代文B) 対象：(第3学年1組～7組)

科目担当者：(1組:内尾)(2組:石井)(3組:檜垣)(4組:石井)(5組:檜垣)(6組:内尾)(7組:檜垣)

教科・科目の 指導目標	「話す」「聞く」「書く」という能力を偏りなく養い、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るとともに、豊かな想像力・読解力・表現力を伸ばし、伝え合う力を高める。また、伝統的な言語文化に対する関心や理解を深め、今日の我々の物の見方や生活様式への影響を理解することで、我が国の文化や精神史を学ばせる。
----------------	---

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	① 知識問題 (漢字書き) 72.3% ② 知識問題 (漢字読み) 89.8% ③ 知識問題 (慣用句等) 43.2% ④ 知識問題 (文学史) 25.6% ⑤ 知識問題 (文法) 32.7% ⑥ 現代文読解 (文学的文章) 46.4% ⑦ 現代文読解 (説明的文章) 64.3% 総合 平均点 42.2点/75点 平均正解率 57.1%	○基礎知識の定着 漢字の小テストを随時行う。 ○読解力の向上 文学的文章では登場人物の心情、説明的文章では筆者の主張の読み取りに重点をおいて指導をする。 ○読解力の向上とあわせて一般的な常識や時事知識の向上を図るために、新聞などの時事的な教材を活用する。	○小テストの振り返り 小テストに合格ラインを設け、不合格者に対して復習課題を提出させる。 ○長期休業中の課題実施 各学期の重点的な内容を課題にまとめ、くりかえし行うことで定着を図る。誤答した場合は見直しを行うよう指導する。 ○長期休業中の補習実施 長期休業中に国語の苦手な生徒を対象に補習をする。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			